

## NEWS

### 井上 大地 上席研究員（血液・腫瘍研究部グループリーダー）が、 2020 ASH Global Research Awardを受賞しました

当機構の井上 大地上席研究員（血液・腫瘍研究部グループリーダー 兼 京都大学大学院・神戸大学大学院客員准教授）が、2020年の米国血液学会 ASH Global Research Award の受賞者に選出されました。

採択テーマは「Spliceosomal disruption of the novel SWI/SNF complex in hematologic malignancies（和文：血液悪性腫瘍におけるスプライシング異常を介した新規 SWI/SNF 複合体の機能喪失）」です。

同賞は世界最大の血液学会である米国血液学会（The American Society of Hematology :ASH）が、血液領域において大きな研究成果をあげ、今後のワールドワイドな活躍とさらなる国際的なリーダーシップが期待される米国外の研究者に 15 万ドルの研究費と共に贈られます。

#### 井上上席研究員のコメント

**「このような名誉ある賞を賜り大変光栄に思います。神戸の新しい研究室を主宰する上でとても大きな励みとなり、今後とも血液内科医そして腫瘍生物学者として根治が困難な悪性疾患の克服に努めます」**

井上 大地上席研究員は、米国ニューヨークのメモリアルスロウケンタリング癌センターから帰国後、2019年に当機構において血液・腫瘍研究部をスタートさせ、白血病などの血液悪性腫瘍のメカニズム解明を目指した研究を進めるとともに、スプライシング異常など新しい発癌機構に着眼をして、この分野の第一人者として成果を挙げています。また、血液細胞の老化は骨や血管などの全身性の老化につながることから、健康長寿社会の実現に向け当研究部における今後の研究の進捗も大変注目されています。



井上 大地 上席研究員  
（血液・腫瘍研究部グループリーダー）

※「スプライシング異常による発癌機構」とは

DNA の塩基配列に基づいた遺伝情報から、不要な部分を取り除く編集作業のことをスプライシングと呼びます。我々の細胞内の DNA にコードされた各遺伝情報は暗号としての意味をもたないイントロンによって中断されていますが、スプライシングによって不要箇所のイントロンが除去され成熟したメッセンジャーRNA となりタンパク質に翻訳されます。しかし、多くの悪性腫瘍ではこのスプライシングの機構が障害され、読み枠のズレが生じるなど、細胞内部で遺伝情報が誤って伝えられてしまいます。このスプライシング異常を標的とすることで、悪性腫瘍の治療につながるということが明らかとなりつつあり (Inoue et al. Nature 2019)、ヒトにおける臨床研究も国内外で進んでいます。

## ■ The American Society of Hematology (ASH)

2020 ASH Global Research Award

<https://www.hematology.org/awards/award-recipients/global-research-award-recipients>

## ■ 神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター 血液・腫瘍研究部 HP

<https://www.fbri-kobe.org/english/laboratory/research5/>

